校異源氏物語・あつまや

つくはやまをわけみまほしき御心はありなからは山のしけりまてあなかちに思いらむもいと人きゝかろ　くしうかたはらいたかるへきほとなれはおほしはゝかりて御せうそこをたにえつたへさせ給はすかのあま君のもとよりそはゝきたのかたにの給しさまなとたひ　くほのめかしをこせけれとまめやかに御心とまるへき事とも思はねはたゝさまてもたつねしり給らん事とはかりおかしうおもひて人の御ほとのたゝ今世にありかたけなるをもかすならましかはなとそよろつに思けるかみのこともははゝなくなりにけるなとあまたこのはらにもひめ君とつけてかしつくありまたをさなきなとすき　くに五六人ありけれはさま　くにこのあつかひをしつゝこと人とおもひへたてたる心のありけれはつねにいとつらき物にかみをもうらみつゝいかてひきすくれておもたゝしきほとにしなしてもみえにしかなと明暮このはゝ君はおもひあつかひけるさまかたちのなのめにとりませてもありぬへくはいとかうしもなにかはくるしきまてもゝてなやましおなしことおもはせてもありぬへきよをものにもましらすあはれにかたしけなくおひいて給へはあたらしく心くるしきものに思へりむすめおほかりときゝてなまきむたちめく人ゝもをとなひいふいとあまたありけりはしめのはらの二三人はみなさま　くにくはりてをとなひさせたり今はわかひめ君をおもふやうにてみたてまつらはやとあけくれまもりてなてかしつく事かきりなしかみもいやしき人にはあらさりけりかむたちめのすちにてなからひも物きたなき人ならすとくいかめしうなとあれはほと　くにつけては思ひあかりていゑのうちもきら　くしくものきよけにすみなし事このみしたるほとよりはあやしうあらゝかにゐ中ひたる心そつきたりけるわかうよりさるあつま方のはるかなるせかいにうつもれて年へけれはにやこゑなとほと　くうちゆかみぬへく物うちいふすこしたみたるやうにてかうけのあたりおそろしくわつらはしき物にはゝかりおちすへていとまたくすきまなき心もありおかしきさまにことふえのみちはとをうゆみをなんいとよくひけるなを　くしきあたりともいはすいきおひにひかされてよきわか人ともさうそくありさまはえならすとゝのへつゝこしおれたるうたあはせ物かたりかうしんをしまはゆくみくるしくあそひかちにこのめるをこの

けさうのきむたちらう　くしくこそあるへけれかたちなんいみしかなるなとおかしき方にいひなして心をつくしあへる中に左近の少将とてとし廿二三はかりの程にて心はせしめやかにさえありといふかたは人にゆるされたれときら　くしういまめいてなとはえあらぬにやかよひし所なともたえていとねんころにいひわたりけりこのはゝ君あまたかゝる事いふ人〻のなかにこのきみは人からもめやすかなり心さたまりても物おもひしりぬへかなるを人もあてなりやこれよりまさりてこと　くしききはの人はたかゝるあたりをさいへとたつねよらしと思てこの御方にとりつきてさるへきおり　くはおかしきさまに返事なとせさせたてまつる心ひとつに思まうくかみこそをろかに思なすとも我はいのちをゆつりてかしつきてさまかたちのめてたきをみつきなはさりともをろかになとはよも思ふ人あらしと思たち八月はかりとちきりてゝうとをまうけはかなきあそひものをせさせてもさまことにやうおかしうまきゑらてんのこまやかなる心はへまさりてみゆる物をはこの御方にとゝりかくしておとりのをこれなむよきとてみすれはかみはよくしもみしらすそこはかとない物との人のてうとゝいふかきりはたゝとりあつめてならへすへつゝめをはつかにさし出るはかりにてことひわのしとてないけうはうのわたりよりむかへとりつゝならはすてひとつひきとれはしをたちゐおかみてよろこひろくをとらする事うつむはかりにてもてさはくはやりかなるこくものなとをしへてしとおかしき夕くれなとにひきあはせてあそふ時は涙もつゝますおこかましきまてさすかに物めてしたりかゝる事ともをはゝ君はすこし物のゆへしりていとみくるしとおもへはことにあへしらはぬをあこをはおもひおとし給へりとつねにうらみけりかくてこの少将ちきりしほとをまちつけておなしくはとくとせめけれはわか心ひとつにかうおもひいそくもいとつゝましう人の心のしりかたさを思てはしめよりつたへそめける人のきたるにちかうよひよせてかたらふよろつおほく思はゝかる事のおほかるを月ころかうの給てほとへぬるをなみ　くの人にもものし給はねはかたしけなう心くるしうてかう思たちにたるをおやなと物し給はぬ人なれは心ひとつなるやうにてかたはらいたうゝちあはぬさまにみえたてまつる事もやとかねてなんおもふわかき人〻あまた侍れと思ふ人くしたるはをのつからとおもひゆつられてこの君の御事をのみなむはかなき世の中をみるにもうしろめたくいみしきを物おもひしりぬへき御心さまときゝてかうよろつのつゝましさをわすれぬへかめるをしももし思はすなる御心はえもみえは人わらへにかなしうなんといひけるを少将の君にまうてゝしか　くなんと申けるにけしきあしくなりぬはしめよりさ

らにかみのみむすめにあらすといふ事をなむきかさりつるおなしことなれと人きゝもけおとりたる心ちしていていりせむにもよからすなん有へきようもあないせてうかひたることをつたへけるとの給ふにいとおしくなりてくはしくもしり給へす女とものしるたよりにておほせことをつたへはしめ侍しになかにかしつくむすめとのみきゝ侍れはかみのにこそはとこそ思給へつれこと人のこもたまへらむともとひきゝ侍らさりつる也かたち心もすくれてものし給事はゝうへのかなしうし給ておもたゝしうけたかきことをせんとあかめかしつかるときゝ侍しかはいかてかのへんの事つたへつへからん人もかなとの給はせしかはさるたよりしり給へりととり申ゝなりさらにうかひたるつみ侍ましきことなりとはらあしくこと葉おほかる物にて申すに君いとあてやかならぬさまにてかやうのあたりにいきかよはむ人のおさ　くゆるさぬ事なれといまやうの事にてとかあるましうもてあかめてうしろみたつにつみかくしてなむあるたくひもあめるをおなしことゝうち　くには思ふともよそのおほえなむへつらひて人いひなすへき源少納言さぬきのかみなとのうけはりたるけしきにていていらむにかみにもおさ　くうけられぬさまにてましらはんなむいと人けなかるへきとの給この人ついそうあるうたてある人の心にてこれをいとくちおしうこなたかなたにおもひけれはまことにかみのむすめとおほさはまたわかうなとおはすともしかつたへ侍らんかしなかにあたるなんひめ君とてかみいとかなしうしたまふなるときこゆいさやはしめよりしかいひよれることををきて又いはんこそうたてあれされと我ほいはかのかむのぬしの人からももの　くしくおとなしき人なれはうしろみにもせまほしうみる所ありて思はしめしことなりもはらかほかたちのすくれたらん女のねかひもなしゝなあてにえむならん女をねかはゝやすくえつへしされとさひしう事うちあはぬみやひこのめる人のはて　くはものきよくもなく人にも人ともおほえたらぬをみれはすこし人にそしらるともなたらかにて世の中をすくさむことをねかふなりかみにかくなんとかたらひてさもとゆるすけしきあらはなにかはさもとの給この人はいもうとのこのにしの御方にあるたよりにかゝる御ふみなともとりつたへはしめけれとかみにはくはしくもみえしられぬものなりけりたゝいきにかみのゐたりけるまへにいきてとり申へきことありてなといはすかみ此わたりに時〻出いりはすときけとまへにはよひいてぬ人のなにことひにかあらんとなまあら　くしきけしきなれと左近の少将とのゝ御せうそこにてなむさふらふといはせたれはあひたりかたらひかたけなるかほしてちかうゐよりて月ころうちの御方にせうそこきこえさせ給を御ゆるしありて

この月のほとにとちきりきこえさせ給事侍を日をはからひていつしかとおほすほとにある人の申けるやうまことに北のかたの御はからひにものし給へとかむのとのゝ御むすめにはおはせすきむたちのおはしかよはむに世のきこえなんへつらひたるやうならむすらうの御むこになり給かやうのきみたちはたゝわたくしの君のことく思かしつきたてまつりてにさゝけたること思ひあつかひうしろみたてまつるにかゝりてなむさるふるまひし給人〻ものし給めるをさすかにその御ねかひはあなかちなるやうにておさ　くうけられ給はてけおとりておはしかよはん事ひんなかりぬへきよしをなむせちにそしり申す人〻あまた侍なれはたゝ今おほしわつらひてなむはしめよりたゝきら　くしう人のうしろみとたのみきこえんにたへ給へる御おほえをえらひ申てきこえはしめ申し也さらにこと人ものし給らんといふ事しらさりけれはもとの心さしのまゝにまたをさなきものあまたおはすなるをゆるい給はゝいとゝうれしくなむ御けしきみてまうてことおほせられつれはといふにかみさらにかゝる御せうそこ侍よしくはしくうけ給はらすまことにおなしことに思ふ給へき人なれとよからぬわらはへあまた侍てはか　くしからぬ身にさま　く思給へあつかふほとにはゝなるものもこれをこと人と思わけたることゝくねりいふこと侍てともかくもくちいれさせぬ人の事に侍れはほのかにしかなむおほせらるゝこと侍とはきゝ侍しかとなにかしをとり所におほしける御心はしり侍らさりけりさるはいとうれしく思給へらるゝ御ことにこそ侍なれいとらうたしとおもふめのわらはゝあまたの中にこれをなんいのちにもかへむと思侍るの給ふ人〻あれと今の世の人のみ心さためなくきこえ侍に中　くむねいたきめをやみむのはゝかりに思ひさたむる事もなくてなんいかてうしろやすくもみ給へをかんと明暮かなしくおもふ給るを少将殿にをきたてまつりてはこ大将殿にもわかくよりまいりつかうまつりきいゐのこにてみたてまつりしにいと経さくにつかふまつらまほしと心つきておもひきこえしかとはるかなる所にうちつゝきてすくし侍としころの程にうゐ　くしくおほえ侍てなんまいりもつかまつらぬをかゝる御心さしの侍けるを返〻おほせのことたてまつらむはやすき事なれと月ころの御心たかへたるやうにこの人思給へんことをなんおもふ給へはゝかり侍といとこまやかにいふよろしけなめりとうれしく思ふなにかとおほしはゝかるへきことにも侍らすかの御心さしはたゝひと所の御ゆるし侍らむをねかひおほしていはけなくとしたらぬほとにおはすともしんしちのやむことなく思ひをきて給へらんをこそほいかなふにはせめもはらさやうのほとりはみたらむふるまひすへきにもあらすとなむの給つる人からは

いとやむことなくおほえ心にくゝおはする君なりけりわかき君たちとてすき
　くしくあてひてもおはしまさす世のありさまもいとよくしり給へり両し給所
ゝもいとおほく侍りまたころの御とくなきやうなれとをのつからやむことなき
人の御けはひのありけなるやうなを人のかきりなきとみといふめるいきおひに
はまさり給へりらい年四位になり給なむこたみのとうはうたかひなくみかとの
御くちつからこて給へるなりよろつの事たらひてめやすき朝臣のめをなんさた
めさなるはやさるへき人えりてうしろみをまうけよかんたちめにはわれしあれ
はけふあすといふはかりになしあけてんとこそおほせらるなれなにこともたゝ
この君そみかとにもしたしくつかふまつり給なる御心はたいみしうかうさくに
おも　くしくなんおはしますめるあたら人の御むこをかうきゝ給ほとにおもほ
したちなむこそよからめかの殿にはわれも　くむこにとりたてまつらんと所
ゝに侍なれはこゝにしふ　くなる御けはひあらはほかさまにもおほしなりな
んこれたゝうしろやすきことをとり申すなりといとおほくよけにいひつゝくる
にいとあさましくひなひたるかみにてうちえみつゝきゝゐたりこのころの御と
くなとの心もとなからむことはなの給そなにかしいのち侍らむほとはいたゝき
にさゝけたてまつりてん心もとなく何をあかぬとかおほすへきたとひあへすし
てつかうまつりさしつとものこりのたから物両し侍所ゝひとつにてもまたとり
あらそふへき人なしこともおほく侍れとこれはさまことに思そめたる物に侍り
たゝま心におほし返みさせ給はゝ大臣のくらゐをもとめむとおほしねかひて世
になきたから物をもつくさむとし給はんになき物侍ましたうしのみかとしかめ
くみ申給なれは御うしろみは心もとなかるましこれかの御ためにもなにかしか
めのわらはのためにもさいはひとあるへき事にやともしらすとよろしけにいふ
時にいとうれしくなりていもうとにもかゝる事ありともかたらすあなたにもよ
りつかてかみのいひつることをいとも　くよけにめてたしと思てきこゆれは君
すこしひなひてそあるとはきゝ給へとにくからすうちゑみてきゝゐ給へり大臣
にならむそくらうをとらんなとそあまりおとろ　くしきことゝみゝとゝまりけ
るさてかの北の方にはかくとものしつや心さしことに思はしめ給らんにひきた
かへたらむひか　くしくねちけたるやうにとりなす人もあらんいさやとおほし
たゆたひたるをなにか北の方もかの姫君をはいとやむことなき物に思ひかしつ
きたてまつり給なりけりたゝなかのこのかみにてとしもおとなひ給を心くるし
きことに思てそなたにとおもむけて申されけるなりけりときこゆ月ころはまた
なくよのつねならすかしつくといひつるものゝうちつけにかくいふもいかなら

むと思へとも猶ひとわたりはつらしと思はれ人にはすこしそしらるともなからへてたのもしき事をこそといとまたくかしこき君にて思とりてけれは日をたにとりかへてちきりし暮にそおははしはしめける北の方は人しれすいそきたちて人〻のさうそくせさせしつらひなとよし　くしうし給御かたをもかしらあらはせとりつくろひてみるに少将なといふ程の人にみせんもおしくあたらしきさまをあはれやおやにしられたてまつりておいたち給はましかはおはせすなりにたれとも大将殿のの給ふらんさまにおほけなくともなとかは思たゝさらましされとうち　くにこそかくおもへほかのをときゝはかみのことも思ひわかす又しちをたつねしらむ人も中　くおとしめ思ひぬへきこそかなしけれなと思つゝくいかゝはせむさかりすき給はんもあいなしいやしからすめやすきほとの人のかくねんころにの給めるをなと心ひとつに思ひさたむるも中たちのかくことよくいみしきに女はましてすかされたるにやあらんあすあさてとおもへは心あはたゝしくいそかしきにこなたにも心のとかにゐられたらすそゝめきありくにかみとよりいりきてなか　くととゝこほる所もなくいひつゝけて我を思へたてゝあこの御けさう人をうはゝむとし給けるおほけなく心をさなきことめてたからむ御むすめをはようせさせ給君たちあらしいやしくことやうならむなにかしらか女こをそいやしうもたつねの給めれかしこく思ひくはたてられけれともはらほいなしとてほかさまへおもひなり給へかなれはおなしくはと思てなんさらは御心とゆるし申つるなとあやしくあふなく人の思はむ所もしらぬ人にていひちらしゐたり北の方あきれて物もいはれてとはかり思ふに心うさをかきつらね涙もおちぬはかりおもひつゝけられてやをらたちぬこなたにわたりてみるにいとらうたけにゐ給へるにさりとも人にはをとり給はしとは思ひなくさむめのとゝふたり心うきものは人の心也けりをのれはおなしこと思あつかふとも此君のゆかりと思はむ人のためにはいのちをもゆつりつへくこそおもへおやなしときゝあなつりてまたをさなくなりあはぬ人をさしこえてかくはいひなるへしやかく心うくちかきあたりにみしきかしと思ひぬれとかみのかくおもたゝしきことにおもひてうけとりさはくめれはあひ　くにたる世の人のありさまをすへてかゝる事にくちいれしとおもふいかてこゝならぬ所にしはしありにしかなとうちなけきつゝいふめのともいとはらたゝしく我君をかくおとしむることゝおもふになにかこれも御さいはひにてたかふことゝもしらすかく心くちおしくいましける君なれはあたら御さまをもみしらさらましわかきみをは心はせあり物思ひしりたらん人にこそみせたてまつらまほしけれ大将殿の御さまかたちのほのかにみたて

まつりしにさもいのちのふる心ちのし侍しかなあはれにはたきこえ給なり御すくせにまかせておほしよりねかしといへはあなおそろしや人のいふをきけはとしころおほろけならん人をはみしとのたまひて右の大との按察の大納言式部卿の宮なとのいとねんころにほのめかし給けれときゝすくしてみかとの御かしつきむすめをえ給へる君はいかはかりの人かまめやかにはおほさんかのはゝ宮なとの御かたにあらせて時　くもみむとはおほしもしなんそれはたけにめてたき御あたりなれともいとむねいたかるへきことなり宮のうへのかくさいはひ人と申すなれと物思はしけにおほしたるをみれはいかにも　くふた心なからん人のみこそめやすくたのもしき事にはあらめ吾身にてもしりにきこ宮の御有さまはいとなさけ　くしくめてたくおかしくおはせしかと人かすにもおほさゝりしかはいかはかりかは心うくつらかりしこのいといふかひなくなさけなくさまあしき人なれとひたおもむきにふた心なきをみれは心やすくて年ころをもすくしつる也おりふしの心はえのかやうにあい行なくようゐなき事こそにくけれなけかしくうらめしきこともなくかたみにうちいさかひても心にあはぬことをはあきらめつかむたちめみこたちにて宮ひかに心はつかしき人の御あたりといふとも我かすならてはかひあらしよろつの事我身からなりけりと思へはよろつにかなしうこそみたてまつれいかにして人わらへならすしたてたてまつらむとかたらふかみはいそきたちて女房なとこなたにめやすきあまたあなるをこの程はあらせ給へやかて帳なともあたらしくしたてられためる方を事にはかになりにためれはとりわたしとかくあらたむましとてにしのかたにきてたちゐとかくしつらひさはくめやすきさまにさはらかにあたり　く有へきかきりしたる所をさかしらに屏風とももてきていふせきまてたてあつめてつしにかいなとあやしきまてしくはへて心をやりていそけは北のかたみくるしくみれとくちいれしといひてしかはたゝにみきく御かたは北おもてにいたり人の御心はみしりはてぬたゝおなしこなれはさりともいとかくは思はなち給はしとこそ思つれさはれ世にはゝなき子はなくやはあるとてむすめをひるよりめのとゝふたりなてつくろひたてたれはにくけにもあらす十五六のほとにていとちいさやかにふくらかなる人のかみうつくしけにてこうちきの程なりすそいとふさやかなりこれをいとめてたしと思ひてなてつくろふなにか人のことさまに思かまへられける人をしもとおもへと人からのあたらしくかうさくに物し給ふ君なれは我も　くとむこにとらまほしくする人のおほかなるにとられなんもくちおしくてなんとかの中ひとにはかられていふもいとおこなりおとこ君もこの程のいかめしくおもふやうなる

こと〻よろつのつみあるましう思てその夜もかへすきそめぬは〻君御方のめのといとあさましくおもふひか　くしきやうなれはとかくみあつかふも心つきなけれは宮の北のかたの御もとに御ふみたてまつるその事と侍らてはなれ　くしくやとかしこまりてえ思給ふるま〻にもきこえさせぬをつ〻しむへきこと侍てしはし所かへさせんとおもふ給るにいとしのひてさふらひぬへきかくれの方さふらは〻いとも　くうれしくなむかすならぬ身一のかけにかくれもあへすあはれなる事のみおほく侍る世なれはたのもしき方にはまつなんとうちなきつ〻かきたるふみをあはれとはみ給けれとこ宮のさはかりゆるし給はてやみにし人をわれひとりのこりてしりかたらはんもいとつ〻ましく又みくるしきさまにて世にあふれんもしらすかほにてきかんこそ心くるしかるへけれことなる事なくてかたみにちりほはんもなき人の御ためにみくるしかるへきわさをおほしわつらふたいふかもとにもいと心くるしけにいひやりたりけれはさるやうこそは侍らめ人にく〻はしたなくもなの給はせそか〻るをとりの物の人の御中にましり給もよのつねの事なりなときこえてさらはかのにしのかたにかくろへたる所しいて〻いとむつかしけなめれとさてもすくい給つへくはしはしのほと〻いひつかはしついとうれしとおもほして人しれすいてたつ御方もかの御あたりをはむつひきこえまほしと思ふ心なれは中　くか〻る事とものいてきたるをうれしとおもふかみ少将のあつかひをいかはかりめてたき事をせんとおもふにそのきら

　くしかるへきこともしらぬ心にはたゝあらゝかなるあつまきぬともをおしまろかしてなけいてつくい物も所せきまてなんはこひいて〻のゝしりけるけすなとはそれをいとかしこきなさけに思ひけれは君もいとあらまほしく心かしこくとりよりにけりと思けり北方このほとをみすて〻しらさらんもひかみたらむとおもひねんしてたゝするま〻にまかせてみゐたりまらうとの御ていさふらひとしつらひさはけは家はひろけれと源少納言ひむかしのたいにはすむをのこゝなとのおほかるに所もなし此御方にまらうとすみつきぬれはらうなとほとりはみたらむにすませたてまつらむもあかすいとおしくおほえてとかく思ひめくらすほと宮にとはおもふ成けりこの御方さまにかすまへ給ふ人のなきをあなつるなめりと思へはことにゆるい給はさりしあたりをあなかちにまいらすめのとわかき人〻二三人はかりして西のひさしの北によりてひとけとをきかたにつほねしたり年ころかくはかなかりつれとうとくおほすましき人なれはまいる時ははち給はすいとあらまほしくけはひことにてわか君の御あつかひをしておはする御有さまうらやましくおほゆるもあはれなり我もこ北のかたにははなれたてまつ

るへき人かはつかふまつるといひしひかりにかすまへられたてまつらすくちおしくてかく人にはあなつらるゝとおもふにはかくしひてむつひきこゆるもあちきなしこゝには御物いみといひてけれは人もかよはす二三日はかりはゝ君もゐたりこたみは心のとかに此みありさまをみる宮わたり給ゆかしくてものゝはさまよりみれはいときよらにさくらをおりたるさまし給ひてわかたのもし人に思てうらめしけれと心にはたかはしとおもふひたちのかみよりさまかたちも人の程もこよなくみゆる五位四位ともあひひさまつきさふらひてこの事かのことゝあたり　くのことゝもけいしともなと申又わかやかなる五位ともかほもしらぬともゝおほかりわかまゝこの式部のそうにてくら人なる内の御つかひにてまいれり御あたりにもえちかくまいらすこよなき人の御けはひをあはれこはなに人そかゝる御あたりにおはするめてたさよゝそに思ふ時はめてたき人ゝときこゆともつらきめみせ給はゝと物うくおしはかりきこえさせつらんあさましさよこの御有さまかたちをみれはたなはたはかりにてもかやうにみたてまつりかよはむはいといみしかるへきわさかなとおもふにわか君いたきてうつくしみおはす女君みしかき木丁をへたてゝおはするをおしやりてものなときこえ給ふ御かたちともいときよらにゝあひたりこ宮のさひしくおはせし御有さまを思ひくらふるにみやたちときこゆれといとこよなきわさにこそありけれとおほゆ木丁のうちにいり給ぬれはわか君はわかき人めのとなともてあそひきこゆ人ゝまいりあつまれとなやましとておほとのこもり暮しつ御たいこなたにまいるよろつのことけたかく心ことにみゆれはわかいみしきことをつくすとみおもへとなおしき人のあたりはくちおしかりけりと思ひなりぬれはわかむすめもかやうにてさしならへたらむにはかたはならしかしいきおひをたのみてちゝぬしのきさきにもなしてんとおもひたる人ゝおなしわかこなからけはひこよなきを思ふも猶今よりのちも心はたかくつかふへかりけりと夜一よあらましかたりおもひつゝけらる宮日たけておき給てきさいの宮例のなやましくし給へはまいるへしとて御そうそくなとし給ておはすゆかしうおほえてのそけはうるはしくひきつくろひ給へるはたにる物なくけたかくあいきやうつきゝよらにてわか君をえみすて給はてあそひおはす御かゆこはいゐなとまいりてそこなたよりいてたまふけさよりまいりてさふらひのかたにやすらひける人ゝいまそまいりて物なときこゆるなかにきよけたちてなてうことなき人のすさましきかほしたるなをしきてたちはきたるありおまへにてなにともみえぬをかれそこのひたちのかみのむこの少将なはしめは御かたにとさためけるをかみのむすめをえてこそいたはられめ

なといひてかしけたるめのわらはをもたるなゝりいさこの御あたりの人はかけてもいはすかの君の方よりよくきくたよりのあるそなとをのかとちいふきくらむともしらて人のかくいふにつけてもむねつふれて少将をめやすき程とおもひける心もくちおしくけにことなる事なかるへかりけりと思ていとゝしくあなつらはしく思なりぬわか君のはひいてゝみすのつまよりのそき給へるをうちみ給てたちかへりよりおはしたり御心ちよろしくみえ給はゝやかてまかてなん猶くるしくし給はゝこよひはとのゐにそ今は一夜をへたつるもおほつかなきこそくるしけれとてしはしなくさめあそはしていて給ぬるさまの返ゝみるとも　くあくましくにほひやかにおかしけれは出給ぬるなこりさう　くしくそなかめらるゝ女君の御まへにいてきていみしくめてたてまつれはゐ中ひたるとおほしてわらひ給こうへのうせ給し程はいふかひなくをさなき御ほとにていかにならせたまはんとみたてまつる人もこ宮もおほしなけきしをこよなき御すくせのほとなりけれはさる山ふところのなかにもおひいてさせ給しにこそありけれくちおしくこひめ君のおはしまさすなりにたるこそあかぬ事なれなとうちなきつゝきこゆ君もうちなき給て世の中のうらめしく心ほそきおり　くも又かくなからふれはすこしも思なくさめつへきおりもあるをいにしへたのみきこえけるかけともにをくれたてまつりけるは中　くによのつねに思ひなされてみたてまつりしらすなりにけれはあるを猶この御事はつきせすいみしくこそ大将のよろつのことに心のうつらぬよしをうれへつゝあさからぬ御心のさまをみるにつけてもいとこそくちおしけれとの給へは大将とのはさはかり世にためしなきまてみかとのかしつきおほしたなるに心おこりし給らむかしおはしまさましかは猶この事せかれしもし給はさらましやなときこゆいさやゝうのものと人わらはれなる心ちせましも中　くにやあらましみはてぬにつけて心にくゝもある世にこそとおもへとかの君はいかなるにかあらむあやしきまて物わすれせすこ宮の御のちの世をさへ思ひやりふかくうしろみありき給めるなと心うつくしうかたり給かのすきにし御かはりにたつねてみんとこのかすならぬ人をさへなんかの弁のあま君にはの給ひけるさもやとおもふ給へよるへき事には侍らねと一もとゆへにこそはとかたしけなけれとあはれになむ思ふ給へらるゝ御心ふかさなるなといふついてにこの君をもてわつらふことなく　くかたるこまかにはあらねと人もきゝけりと思ふに少将のおもひあなつりけるさまなとほのめかしていのち侍らむかきりはなにか朝ゆふのなくさめくさにてみすくしつへしうちすて侍なんのちはおもはすなるさまにちりほひ侍らむかかなしさにあまになしてふかき山にやし

すへてさるかたに世のなかを思たえて侍らましなとなん思ふ給へわひては思よりはへるなといふけに心くるしき御有さまにこそはあなれとなにか人にあなつらるゝ御有さまはかやうになりぬる人のさかにこそさりとてもたえぬわさなりけれはむけにそのかたに思をきて給へりし身たにかく心より外になからふれはまいていとあるましき御事也やつゐ給はんもいとおしけなる御さまにこそなといとおとなひての給へはゝは君いとうれしと思たりねひにたるさまなれとよしなからぬさましてきよけなりいたくこえすきにたるなむひたち殿とはみえけるこ宮のつらうなさけなくおほしはなちたりしにいとゝ人けなく人にもあなつられ給とみ給れとかうきこえさせ御覧せらるゝにつけてなんいにしへのうさもなくさみ侍なと年ころの物かたりうきしまのあはれなりし事もきこえいつわか身ひとつのとのみいひあはする人もなきつくは山の有さまもかくあきらめきこえさせていつもいとかくてさふらはまほしく思給へなり侍ぬれとかしこにはよからぬあやしの物ともいかにたちさはきもとめ侍らんさすかに心あはたゝしく思給へらるゝかゝる程の有さまに身をやつすは口おしき物になん侍けると身にもおもひしらるゝをこの君はたゝまかせきこえさせてしり侍らしなとかこちきこえかくれはけにみくるしからてもあらなんとみ給かたちも心さまもえにくむましうらうたけなりものはちもおとろ　くしからすさまようこめいたる物からかとなからすちかくさふらふ人〳〵にもいとよくかくれてゐたまへり物なといひたるもむかしの人の御さまにあやしきまておほえたてまつりてそあるやかの人かたもとめ給人にみせたてまつらはやとうち思いて給おりしも大将殿まいり給と人きこゆれは例の御き丁ひきつくろひて心つかひすこのまらうとのはゝ君いてみたてまつらんほのかにみたてまつりける人のいみしき物にきこゆめれと宮の御有さまにはえならひ給はしといへは御前にさふらふ人〳〵いさやえこそきこえさためねときこえあへりいか計ならん人か宮をはけちたてまつらむなといふほとに今そ車よりおり給なるときく程かしかましきまてをひのゝしりてとみにもみえ給はすまたれ給ほとにあゆみいり給さまをみれはけにあなめてたおかしけともみえすなからそなまめかしうあてにきよけなるやすゝろにみえくるしうはつかしくてひたいかみなともひきつくろはれて心恥しけにようゐおほくきはもなきさまそし給へる内よりまいり給へるなるへし御せんとものけはひあまたしてよへきさいの宮のなやみ給よしうけ給りてまいりたりしかは宮たちのさふらひ給はさりしかはいとおしくみたてまつりて宮の御かはりにいまゝてさふらひ侍つるけさもいとけたいしてまいらせ給へるをあいなう御あやまちにおしは

かりきこえさせてなむときこえ給へはけにをろかならす思やりふかき御よういになんとはかりいらへきこえ給ふ宮は内にとまり給ぬるをみをきてたゝならすおはしたるなめり例の物かたりいとなつかしけにきこえ給ふことにふれてたゝいにしへのわすれかたく世の中の物うくなりまさるよしをあらはにはいひなさてかすめうれへ給さしもいかてかよをへて心にはなれすのみはあらむ猶あさからすいひそめてし事のすちなれはなこりなからしとにやなとみなし給へと人の御けしきはしるき物なれはみもてゆくまゝにあはれなる御心さまをいは木ならねはおもほしゝるうらみきこえ給ふ事もおほかれはいとわりなくうちなけきてかゝる御心をやむるみそきをせさせたてまつらまほしくおもほすにやあらんかの人かたの給いてゝいとしのひてこのわたりになんとほのめかしきこえたまふをかれもなへての心ちはせすゆかしくなりにたれとうちつけにふとうつらむ心地はたせすいてやその本そんねかひみてたまふへくはこそたうとからめ時ゝ心やましくは中　く山水もにこりぬへくとの給へははて　くはうたての御ひしり心やとほのかにわらひ給ふもおかしうきこゆいてさらはつたへはてさせ給へかしこの御のかれこと葉こそおもひいつれはゆゝしくとの給てもまたなみたくみぬ

　みし人のかたしろならは身にそへて恋しきせゝのなて物にせむと例のたはふれにいひなしてまきらはしたまふ

　みそき川せゝにいたさんなて物を身にそふ影とたれかたのまんひくてあまたにとかやいとおしくそ侍やとのたまへはつゐによるせはさらなりやいとうれたきやうなる水のあわにもあらそひ侍かなかきなかさるゝなて物はいてまことそかしいかてなくさむへきことそなといひつゝくらうなるもうるさけれはかりそめにものしたる人もあやしくと思らむもつゝましきをこよひはなをとく返給ねとこしらへやり給さらはそのまらうとにかゝる心のねかひ年へぬるをうちつけになとあさう思なすましうのたまはせしらせ給てはしたなけなるましうはこそいとうゐ　くしうならひにて侍る身はなに事もおこかましきまてなんとかたらひきこえをきていて給ぬるにこのはゝ君いとめてたくおもふやうなるさまかなとめてゝめのとゆくりかに思よりてたひ　くいひしことをあるましきことにいひしかとこの御ありさまをみるにはあまのかはをわたりてもかゝるひこほしの光をこそまちつけさせめ我むすめはなのめならん人にみせんはおしけなるさまをえひすめきたる人をのみみならひて少将をかしこき物に思けるをくやしきまて思なりにけりよりゐ給へりつるまきはしらもしとねもなこりにほへるうつ

りかいへはいとことさらめきたるまてありかたし時ゝみたてまつる人たにたひ
ことにめてきこゆ経なとをよみてくとくのすくれたる事あめるにもかのかうは
しきをやんことなきことに仏の給をきけるもことはりなりややく王品なとにと
りわきてのたまへる五つ千たんとかやおとろ　くしき物のなゝれとまつかのと
のゝちかくふるまひ給へは仏はまことし給けりとこそおほゆれをさなくおはし
けるよりおこなひもいみしくし給けれはよなといふもありまたさきの世こそゆ
かしき御有さまなれなとくち　くめつる事ともをすゝろにゑみてきゝゐたり君
はしのひての給つることをほのめかしの給ふ思そめつることしうねきまてかろ
　くしからすものし給めるをけにたゝ今の有さまなとを思はわつらはしき心地
すへけれとかのよをそむきてもなと思より給らんもおなしことにおもひなして
心み給へかしとの給へはつらきめみせす人にあなつられしの心にてこそ鳥のね
きこえさらんすまゐまて思給へをきつれけに人の御有さまけはひをみたてまつ
り思給ふるはしもつかへのほとなとにてもかゝる人の御あたりになれきこえん
はかひありぬへしまいてわかき人は心つけたてまつりぬへく侍めれと数ならぬ
身に物おもふたねをやいとゝまかせてみ侍らんたかきもみしかきも女といふも
のはかゝるすちにてこそこのよのちの世まてくるしき身になり侍なれと思給へ
はへれはなむいとおしく思給へ侍それもたゝ御心になんともかくもおほしすて
す物せさせ給へときこゆれはいとわつらはしくなりていさやきしかたの心ふか
さにうちとけてゆくさきのありさまはしりかたきをとうちなけきてことに物も
の給はすなりぬあけぬれは車なとゐてきてかみのせうそこなといとはらたゝし
けにをひやかしたれはかたしけなくよろつにたのみきこえさせてなん猶しはし
かくさせ給ていはほの中にともいかにとも思給へめくらし侍ほとかすに侍らす
ともおもほしはなたすなにことをもをしへさせ給へなときこえをきてこの御方
もいと心ほそくならはぬ心ちにたちはなれんを思へといまめかしくおかしくみ
ゆるあたりにしはしもみなれたてまつらむとおもへはさすかにうれしくもおほ
えけり車ひきいつるほとのすこしあかうなりぬるに宮内よりまかて給わか君お
ほつかなくおほえ給けれはしのひたるさまにてくるまなとも例ならておはしま
すにさしあひておしとゝめてたてたれはらうに御車よせており給ふなその車そ
くらきほとにいそきいつるはとめとゝめさせ給かやうにてそしのひたる所には
いつるかしと御心ならひにおほしよるもむくつけしひたちとのゝまかてさせ給
と申すわかやかなる御せんともとのこそあさやかなれとわらひあへるを聞もけ
にこよなの身のほとやとかなしくおもふたゝこの御かたのことを思ゆへにそを

のれも人〻しくならまほしくおほえけるましてさうしみをなを　くしくやつしてみむことはいみしくあたらしうおもひなりぬ宮いり給てひたち殿といふ人やこゝにかよはしたまふ心ある朝ほらけにいそきいてつる車そひなとこそことさらめきてみえつれなと猶おほしうたかひてのたまふきゝにくゝかたはらいたしとおほしてたいふなとかわかくてのころともたちにてありける人はことにいまめかしうもみえさめるをゆへ　くしけにもの給なすかな人のきゝとかめつへき事をのみつねにとりない給こそなき名はたてゝとうちそむき給ふもらうたけにおかし明るもしらすおほとのこもりたるに人〻あまたまいり給へはしん殿にわたり給ぬきさいの宮はこと　くしき御なやみにもあらてをこたり給にけれは心ちよけにて右大とのゝ君たちなとこうちゐんふたきなとしつゝあそひたまふ夕つかた宮こなたにわたらせ給へれは女君は御ゆするの程なりけりひと　くもをの　くうちやすみなとして御前には人もなしちいさきわらはのあるしておりあしき御ゆするのほとこそみくるしかめれさう　くしくてやなかめんときこえ給へはけにおはしまさぬひま　くにこそれいはすませあやしうひころも物うからせ給てけふすきはこの月は日もなし九十月はいかてかはとてつかまつらせつるをとたいふいとおしかるわか君もねたまへりけれはそなたにこれかれあるほとに宮はたゝすみありき給てにしの方に例ならぬわらはのみえつるをいまゝいりたるかなとおほしてさしのそきたまふなかのほとなるさうしのほそめにあきたるよりみ給へはさうしのあなたに一尺はかりひきさけて屏風たてたりそのつまに木丁すにそへてたてたりかたひらひとへをうちかけてしをん色の花やかなるにをみなへしのをり物とみゆるかさなりて袖口さしいてたり屏風のひとひらたゝまれたるより心にもあらてみゆるなめりいまゝいりのくちおしからぬなめりとおほしてこのひさしにかよふさうしをいとみそかにおしあけ給てやをらあゆみより給も人しらすこなたのらうの中のつほせんさいのいとおかしう色〻にさきみたれたるにやり水のわたりいしたかきほといとおかしけれははしちかくそひふしてなかむる成けりあきたるさうしを今すこしおしあけて屏風のつまよりのそき給に宮とは思ひもかけす例こなたにきなれたる人にやあらんと思ておきあかりたるやうたいいとおかしうみゆるにれいの御心はすくし給はてきぬのすそをとらへ給てこなたのさうしはひきたて給て屏風のはさまにゐたまひぬあやしとおもひてあふきをさしかくしてみ返たるさまいとおかしあふきをもたせなからとらへたまひてたれそ名のりこそゆかしけれとの給にむくつけくなりぬさるものゝつらにかほをほかさまにもてかくしていといたうしのひ給へれはこの

たゝならすほのめかし給ふらん大将にやかうはしきけはひなとも思わたさるゝにいとはつかしくせんかたなしめのと人けの例ならぬをあやしと思てあなたなる屏風をおしあけてきたりこれはいかなることにか侍らんあやしきわさにも侍るなときこゆれとはゝかり給へきことにもあらすかくうちつけなる御しわさなれとことの葉おほかる本上なれはなにやかやとの給ふに暮はてぬれとたれときかさらむほとはゆるさしとてなれ　くしくふし給に宮なりけりとおもひはつるにめのといはん方なくあきれてゐたりおほとなあふらはとうろにていまわたらせ給なんと人〳〵いふなりおまへならぬかたのみかうしともそおろすなるこなたははなれたるかたにしなしてたかきたなつし一よろひたて屏風のふくろにいれこめたる所〳〵によせかけなにかのあらゝかなるさまにしはなちたりかく人のものし給へはとてかよふみちのさうしひとまはかりそあけたるを右近とてたいふかむすめのさふらふきてかうしおろしてこゝによりくなりあなくらやまたおほとなふらもまいらさりけりみかうしをくるしきにいそきまいりてやみにまとふよとてひきあくるに宮もなまくるしときゝ給ふめのとはたいとくるしと思ひて物つゝみせすはやりかにをそき人にてものきこえ侍らんこゝにいとあやしきことの侍にこうしてなんえうこき侍らてなむなに事そとてさくりよるにうちきすかたなるおとこのいとかうはしくてそひふし給へるを例のけしからぬ御さまと思ひよりにけり女の心あはせたまふましきことゝおしはからるれはけにいとみくるしき事にも侍かな右近はいかにかきこえさせんいまゝいりて御せんにこそはしのひてきこえさせめととてたつをあさましくかたわにたれも　くおもへと宮はおち給はすあさましきまてあてにおかしき人かな猶なに人ならん右近かいひつるけしきもいとおしなへてのいまゝいりにはあらさめり心えかたくおほされてといひかくいひうらみ給ふ心つきなけにけしきはみてもゝてなさねとたゝいみしうしぬはかりおもへるかいとおしけれはなさけありてこしらへ給ふ右近うへにしか　くこそおはしませいとおしくいかにおもふらんときこゆれは例の心うき御さまかなかのはゝもいかにあは　くしくけしからぬさまに思給はんとすらむうしろやすくと返〳〵いひをきつる物をといとおしくおほせといかゝきこえむさふらふ人〳〵もすこしわかやかによろしきはみすて給ふなくあやしき人の御くせなれはいかゝはおもひより給けんとあさましきに物もいはれたまはす上達部あまたまいり給ふ日にてあそひたはふれてはれいもかゝる時はをそくもわたり給へはみなうちとけてやすみ給そかしさてもいかにすへきことそかのめのとこそおそましかりけれつとそひゐてまもりたてまつりひきもかなくりたてま

つりつへくこそ思ひたりつれと少将とふたりしていとおしかる程に内より人まいりて大宮この夕くれより御むねなやませ給ふをたゝ今いみしくおもくなやませたまふよし申さす右近心なきおりの御なやみかなきこえさせんとてたつ少将いてや今はかひなくもあへい事をおこかましくあまりなおひやかしきこえ給そといへはいなまたしかるへしとしのひてさゝめきかはすをうへはいときゝにくき人の御本上にこそあめれすこし心あらん人は我あたりをさへうとみぬへかめりとおほすまいりて御つかひの申すよりも今すこしあはたゝしけに申なせはうこき給へきさまにもあらぬ御けしきにたれかまいりたる例のおとろ　くしくをひやかすとのたまはすれは宮のさふらひにたいらのしけつねとなんなのり侍つるときこゆいて給はん事のいとわりなくゝちおしきに人めもおほされぬに右近たちいてゝこの御つかひをにしおもてにてといへは申つきつる人もよりきて中つかさの宮まいらせ給ぬ大夫はたゝ今なんまいりつるみちに御車ひきいつるみ侍つと申せはけにかにはかに時ゝなやみたまふおり　くもあるをとおほすに人のおほすらん事もはしたなくなりていみしうゝらみちきりをきていて給ひぬおそろしき夢のさめたる心ちしてあせにおしひたしてふし給へりめのとうちあふきなとしてかゝる御すまゐはよろつにつけてつゝましうひんなかりけりかくおはしましそめてさらによきこと侍らしあなおそろしやかきりなき人ときこゆとも安からぬ御有さまはいとあちきなかるへしよそのさしはなれたらん人にこそよしともあしともおほえられ給はめ人きゝもかたはらいたきことゝ思給へてかまのさうをいたしてつとみたてまつりつれはいとむくつけくけす　くしき女とおほしててをいといたくつませ給つるこそなを人のけさうたちていとおかしくもおほえ侍つれかのとのにはけふもいみしくいさかひ給けりたゝひと所の御うへをみあつかひ給ふとて我　くこともをはおほしすてたりまらうとのおはする程の御たひゐみくるしとあら　くしきまてそきこえ給ひけるしも人さへきゝいとおしかりけりすへてこの少将の君そいとあい行なくおほえ給このみこと侍らさらましかはうち　くやすからすむつかしきことはおりおり侍ともなたらかにとしころのまゝにておはしますへき物をなとうちなけきつゝいふ君はたゝいまはともかくも思ひめくらされすたゝいみしくはしたなくみしらぬめをみつるにそへてもいかにおほすらんとおもふにわひしけれはうつふしふしてなき給ふいとくるしとみあつかひてなにかかくおほすはゝをはせぬ人こそたつきなうかなしかるへけれよそのおほえはちゝなき人はいとくちおしけれとさかなきまゝはゝにくまれんよりはこれはいとやすしともかくもしたてまつり給てんなおほし

くんせそさりとも はつせの観音おはしませはあはれと思きこえ給らんならはぬ
御身にたひ　くしきりてまて給事は人のかくあなつりさまにのみおもひきこえ
たるをかくもありけりと思ふはかりの御さいはひおはしませとこそねんし侍れ
あか君は人わらはれにてはやみ給なむやとよをやすけにいひゐたり宮はいそき
ていて給なりうちゝかき方にやあらんこなたの御かとより出給へはものゝ給御
こゑもきこゆいとあてにかきりもなくきこえて心はへあるふる事なとうちすし
給てすき給ふほとすゝろにわつらはしくおほゆうつしむまともひきいたしてと
のゐにさふらふ人十人はかりしてまいり給ふうへいとおしくうたて思ふらんと
てしらすかほにて大宮なやみ給ふとてまいり給ぬれはこよひはいて給はしゆす
るのなこりにや心ちもなやましくておきゐ侍るをわたり給へつれ　くにもおほ
さるらんときこえたまへりみたり心ちのいとくるしう侍をためらひてとめのと
してきこえ給いかなる御心ちそと返とふらひきこえ給へはなに心ちともおほえ
侍らすたゝいとくるしく侍ときこえ給へは少将右近めましろきをしてかたはら
そいたくおはすらむといふもたゝなるよりはいとおしいとくちおしう心くるし
きわさかな大将の心とゝめたるさまにのたまふめりしをいかにあは　くしく思
ひおとさむかくみたりかはしくおはする人はきゝにくゝしちならぬことをもく
ねりいひまたまことにすこし思はすならむことをもさすかにみゆるしつへうこ
そおはすめれこの君はいはてうしと思はんこといとはつかしけに心ふかきをあ
いなく思ふ事そひぬる人のうへなめりとしころみすしらさりつる人のうへなれ
と心はえかたちをみれはえ思はなるましうらうたく心くるしきに世の中はあり
かたくむつかしけなる物かな我身の有さまはあかぬ事おほかる心地すれとかく
物はかなきめもみつへかりける身のさはゝふれすなりにけるにこそけにめやす
きなりけれ今はたゝこのにくき心そひ給へる人のなたらかにておもひはなれな
はさらになにことも思いれすなりなんとおもほすいとおほかる御くしなれはと
みにもえほしやらすおきゐ給へるもくるしゝろき御そ一かさねはかりにておは
するほそやかにておかしけなりこの君はまことに心ちもあしくなりにたれとめ
のといとかたはらいたしことしもありかほにおほすらむをたゝおほとかにてみ
えたてまつり給へ右近の君なとにはことの有さまはしめよりかたり侍らんとせ
めてそゝのかしたてゝこなたのさうしのもとにて右近の君に物きこえさせんと
いへはたちていてたれはいとあやしく侍つる事のなこりに身もあつうなり給て
まめやかにくるしけにみえさせ給ふをいとおしくみ侍御前にてなくさめきこえ
させ給へとてなんあやまちもおはせぬ身をいとつゝましけにおもほしわひため

るもいさゝかにても世をしり給へる人こそあれいかてかはとことはりにいとおしくみたてまつるとてひきおこしてまいらせたてまつる我にもあらす人の思ふらむこともはつかしけれといとやはらかにおほときすき給へる君にておしいてられてゐたまへりひたいかみなとのいたうぬれたるもてかくして火のかたにそむき給へるさまうへをたくひなくみたてまつるにけをとるともみえすあてにおかしこれにおほしつきなはめさましけなることはありなんかしいとかゝらぬをたにめつらしき人をかしうしたまふ御心をとふたりはかりそをまへにてえはち給はねはみゐたりける物かたりいとなつかしくし給て例ならすつゝましき所なとな思なし給そこひめ君のおはせすなりにし後わするゝよなくいみしく身もうらめしくたくひなきこゝちしてすくすにいとよく思よそへられ給ふ御さまをみれはなくさむ心ちしてあはれになむ思人もなき身にむかしの御心さしのやうにおもほさはいとうれしくなんなとかたらひたまへといと物つゝましくてまたひなひたる心にいらへきこえん事もなくてとしころいとはるかにのみ思きこえさせしにかうみたてまつり侍はなにこともなくさむ心ちし侍てなんとはかりいとわかひたるこゐにていふゐなととりいてさせて右近にこと葉よませてみ給ふにむかひてものはちもえしあへ給はす心にいれてみ給へるほかけさらにこゝとみゆる所なくこまかにおかしけなりひたいつきまみのかほりたる心ちしていとおほとかなるあてさはたゝそれとのみ思いてらるれはゐはことにめもとゝめ給はていとあはれなる人のかたちかないかてかうしもありけるにかあらんこ宮にいとよくにたてまつりたるなめりかしこひめ君はみやの御方さまに我はゝはうへににたてまつりたるとこそはふる人ともいふなりしかけにゝたる人はいみしき物なりけりとおほしくらふるに涙くみてみ給かれはかきりなくあてにけたかきものからなつかしうなよゝかにかたはなるまてなよ　くとたはみたるさまのし給へりしにこそこれはまたもてなしのうい　くしけによろつのことをつゝましうのみ思ひたるけにや見所おほかるなまめかしさそをとりたるゆへゆへしきけはひたにもてつけたらは大将のみ給はんにもさらにかたはなるましなとこのかみ心におもひあつかはれ給ふものかたりなとし給てあか月かたになりてそねたまふかたはらにふせ給てこ宮の御事ともとし比おはせし御有さまなとまほならねとかたり給いとゆかしうみたてまつらすなりにけるをいとくちおしうかなしと思たりよへの心しりの人ゝはいかなりつらんないとらうたけなる御さまをいみしうおほすともかひ有へきことかはいとおしといへは右近そさもあらしかの御めのとのひきすへてすゝろにかたりうれへしけしきもてはなれてそいひし宮

もあひてもあはぬやうなる心はえにこそうちうそふきくちすさひ給しかいさやことさらにもやあらんそはしらすかしよへのほかけのいとおほとかなりしもことありかほにはみえたまはさりしをなとうちさゝめきていとおしかるめのと車こひてひたちとのへいぬ北の方にかう　くといへはむねつふれさはきて人もけしからぬさまにいひ思らむさうしみもいかゝおほすへきかゝるすちの物にくみはあて人もなきものなりとをのか心ならひにあはたゝしく思ひなりて夕つかたまいりぬ宮おはしまさねは心やすくてあやしく心をさなけなる人をまいらせをきてうしろやすくはたのみきこえさせなからいたちの侍らむやうなる心ちのし侍れはよからぬものともににくみうらみられ侍ときこゆいとさいふはかりのをさなさにはあらさめるをうしろめたけにけしきはみたる御まかけこそわつらはしけれとてわらひ給へるか心はつかしけなる御まみをみるも心のおにゝはつかしくそおほゆるいかにおほすらんとおもへはえもうちいてきこえすかくてさふらひ給はゝとしころのねかひのみつ心ちして人のもりきゝ侍らむもめやすくおもたゝしき事になん思給ふるをさすかにつゝましき事になん侍けるふかき山のほいはみさほになん侍へきをとてうちなくもいと　くおしくてこゝにはなに事かうしろめたくおほえ給ふへきとてもかくてもうと　くしく思はなちきこえはこそあらめけしからすたちてよからぬ人の時ゝものし給めれとその心をみな人みしりためれは心つかひしてひんなうはもてなしきこえしと思ふをいかにおしはかり給ふにかとのたまふさらに御心をはへたてありても思きこえさせ侍らすかたはらいたうゆるしなかりしすちはなにゝかかけてもきこえさせ侍らんそのかたならておもほしはなつましきつなも侍をなんとらへ所にたのみきこえさするなとをろかならすきこえてあすあさてかたきものいみに侍をおほそうならぬ所にてすくして又もまいらせ侍らむときこえていさなふいとおしくほいなきわさかなとおほせとえとゝめたまはすあさましうかたはなることにおとろきさはきたれはおさ　く物もきこえていてぬかやうのかたゝかへ所と思てちいさきいゑまうけたりけり三条わたりにされはみたるかまたつくりさしたる所なれははか　くしきしつらひもせてなんありけるあはれこの御身ひとつをよろつにもてなやみきこゆるかな心にかなはぬ世にはありふましき物にこそありけれみつからはかりはたゝひたふるにしな　くしからす人けなうたゝさるかたにはひこもりてすくしつへしこのゆかりは心うしと思ひきこえしあたりをむつひきこゆるにひんなきこともいてきなはいと人わらへなるへしあちきなしことやうなりともこゝを人にもしらせすしのひておはせよをのつからともかくもつかふまつり

てんといひをきてみつからはかへりなんとす君はうちなきて世にあらんこと所
せけなる身と思くし給へるさまいとあはれなりおやはたましてあたらしくおし
けれはつゝかなくておもふことみなさむと思さるかたはらいたきことにつけて
人にもあは　くしく思はれいはれんかやすからぬなりけり心ちなくなとはあら
ぬ人のなまはらたちやすく思のまゝにそすこしありけるかのいゑにもかくろへ
てはすへたりぬへけれとしかかくろへたらむをいとおしとおもひてかくあつか
ふにとしころかたはらさらす明くれみならひてかたみに心ほそくわりなしと思
へりこゝは又かくあはれてあやうけなる所なめりさる心し給へさうし　くにあ
るものともめしいてゝつかひたまへとのゐ人のことなといひをきて侍もいとう
しろめたけれとかしこにはらたちうらみらるゝかいとくるしけれはとうちなき
てかへる少将のあつかひをかみは又なきものにおもひいそきてもろ心にさまあ
しくいとなますとゑんする也けりいと心うくこの人によりかゝるまきれともゝ
あるそかしと又なく思ふかたの事のかゝれはつらく心うくておさ　くみいれす
かの宮の御まへにていと人気なくみえしにおほくおもひおとしてけれはわたく
し物に思かしつかましをなとおもひし事はやみにたりこゝにてはいかゝみゆら
むまたうちとけたるさまみぬにと思てのとかにゐ給へるひるつかたこなたにわ
たりて物よりのそくしろきあやのなつかしけなるにいまやう色のうちめなとも
きよらなるをきてはしのかたにせんさいみるとていたるはいつこかはおとるい
ときよけなめるはとみゆむすめまたかたなりになにこゝろもなきさまにてそひ
ふしたり宮のうへのならひておはせし御さまともの思いつれはくちおしのさま
ともやとみゆまへなるこたちに物なといひたはふれてうちとけたるはいとみし
やうににほひなく人わろけにてみえぬをかの宮なりしはこと少将なりけりと思
おりしもいふことよ兵部卿の宮の萩のなをことにおもしろくもあるかないかて
さるたねありけんおなし枝さしなとのいとえんなるこそ一日まいりていて給ほ
となりしかはえおらすなりにきことたにおしきと宮のうちすし給へりしをわか
き人たちにみせたらましかはとて我もうたよみゐたりいてや心はせの程をおも
へは人ともおほえすいてきえはいとこよなかりけるになに事いひたるそとつ
ふやかるれといと心ちなけなるさまはさすかにしたらねはいかゝいふとて心み
に

　しめゆひしこ萩かうへもまよはぬにいかなる露にうつる下葉そとあるにお
しくおほえて

　宮き野のこはきかもとゝしらませは露も心をわかすそあらましいかてみつ

からきこえさせあきらめむといひたりこ宮の御ことき丶たるなめりと思ふにいとゝいかて人とひとしくとのみおもひあつかはるあいなう大将とのゝ御さまかたちそ恋しう面かけにみゆるおなしうめてたしとみたてまつりしかと宮は思ひはなれ給て心もとまらすあなつりておしいりたまへりけるを思ふもねたしこの君はさすかにたつねおほす心はへのありなからうちつけにもいひかけ給はすつれなしかほなるしもこそいたけれよろつにつけて思はてらるれはわかき人はましてかくや思はてきこえ給ふらん我ものにせんとかくにくき人を思けむこそみくるしきことなへかりけれなとたゝ心にかゝりてなかめのみせられてとてやかくてやとよろつによからむあらましことを思つゝくるにいとかたしやむことなき御身のほと御もてなしみたてまつり給へらむ人は今すこしなのめならすいかはかりにてかは心をとゝめ給はん世の人の有さまをみ聞にをとりまさりいやしうあてなるしなにしたかひてかたちも心もあるへきものなりけり我こともをみるにこの君にゝるへきやはある少将をこのいゑのうちに又なきものにおもへとも宮にみくらへたてまつりしはいともくちおしかりしにおしはからるたう代の御かしつきむすめをえたてまつり給へらむ人の御めうつしにはいとも　くはつかしくつゝましかるへきものかなと思ふにすゝろに心ちもあくかれにけりたひのやとりはつれ　くにて庭の草もいふせき心ちするにいやしきあつまこゑしたるものともはかりのみいていりなくさめにみるへきせんさいの花もなしうちあはれてはれ　くしからて明しくらすに宮のうへの御有さま思いつるにわかい心ちに恋しかりけりあやにくたち給へりし人の御けはひもさすかに思いてられてなに事にかありけむいとおほくあはれけにの給しかななこりおかしかりし御うつり香もまたのこりたる心ちしておそろしかりしも思いてらるはゝ君たつやといとあはれなるふみをかきておこせ給をろかならす心くるしう思あつかひ給ふめるにかひなうもてあつかはれたてまつることゝうちなかれていかにつれ　くにみならはぬ心ちし給ふらんしはししのひすくしたまへとある返ことにつれ

くはなにか心やすくてなむ

ひたふるにうれしからまし世の中にあらぬ所と思はましかはとおさなけにいひたるをみるまゝにほろ　くとうちなきてかうまとはしはふるゝやうにもてなすことゝいみしけれは

浮世にはあらぬ所をもとめても君かさかりをみるよしもかなとなを　くしき事ともをいひかはしてなん心のへけるかの大将殿は例の秋ふかくなりゆく比ならひにしことなれはねさめ　くにものわすれせすあはれにのみおほえ給けれ

はうちのみたうつくりはてつときゝ給ふに身つからおはしましたりひさしうみ
給はさりつるに山のもみちもめつらしうおほゆこほちし心殿こたみはいとはれ
　くしうつくりなしたりむかしいとことそきてひしりたち給へりしすまゐを思
ひ出るにこの宮も恋しうおほえ給てさまかへてけるもくちおしきまてつねより
もなかめ給ふもとありし御しつらひはいとたうとけにていまかたつかたを女し
くこまやかになと一かたならさりしをあしろ屏風なにかのあら　くしきなとは
かの御堂の僧坊のくにことさらになさせ給へり山里めきたるくともをことさら
にせさせ給ていたうもことそかすいときよけにゆへ　くしくしつらはれたりや
り水のほとりなるいはにゐたまひて
　　たえはてぬし水になとかなき人のおも影をたにとゝめさりけん涙をのこひ
て弁のあま君のかたにたちより給へれはいとかなしとみたてまつるにたゝひそ
みにひそむなけしにかりそめにゐたまひてすたれのつまひきあけて物かたりし
給ふ木丁にかくろへてゐたりことのついてにかの人はさいつころ宮にときゝし
をさすかにうゐ　くしくおほえてこそをとつれよらね猶これよりつたへはて給
へとのたまへはひとひかのはゝ君のふみ侍りきいみたかふとてこゝかしこにな
んあくかれ給めるこのころもあやしきこいへにかくろへものし給めるも心くる
しくすこしちかき程ならましかはそこにもわたして心やすかるへきをあらまし
き山みちにたはやすくもえ思たゝてなんと侍しときこゆ人ゝのかくおそろしく
すめるみちにまろこそふりかたくわけくれなにはかりの契りにかと思はあはれ
になんとてれいのなみたくみ給へりさらはその心やすからん所にせうそこした
まへ身つからやはかしこにいて給はぬとの給へはおほせことをつたへ侍らんこ
とは安し今さらに京をみ侍らんことは物うくて宮にたにえまいらぬをときこゆ
なとてかともかくも人のきゝつたへはこそあらめあたこのひしりたに時にした
かひてはいてすやはありけるふかきちきりをやふりて人のねかひをみて給はむ
こそたうとからめとの給へは人わたすことも侍らぬにきゝにくき事もこそいて
まうてくれとくるしけにおもひたれとなをよきおりなるをと例ならすしいてあ
さてはかり車たてまつらんその旅の所たつねをき給へゆめおこかましうひかわ
さすましきをとほゝゑみての給へはわつらはしくいかにおほす事ならんと思へ
とあふなくあは　くしからぬ御心さまなれはをのつからわかためにも人きゝな
とはつゝみ給ふらむと思てさらはうけ給はりぬちかき程にこそ御ふみなとをみ
せさせ給へかしふりはへさかしらめきて心しらひのやうに思はれ侍らんも今さ
らにいかたうめにやとつゝましくてなんときこゆ文はやすかるへきを人のもの

いひいとうたてある物なれは右大将はひたちの守のむすめをなんよはふなるなともとりなしてんをやそのかむのぬしいとあら　くしけなめりとの給へはうちわらひていとおしとおもふくらうなれは出給した草のおかしき花とも紅葉なとおらせ給て宮に御らむせさせ給ふかひなからすおはしぬへけれとかしこまりをきたるさまにていたうもなれきこえ給はすそあめるうちよりたゝのおやめきて入道の宮にもきこえ給へはいとやむことなき方はかきりなく思きこえ給へりこなたかなたとかしつききこえ給ふみやつかひにそへてむつかしきわたくしの心のそひたるもくるしかりけりのたまひしまたつとめてむつましくおほすけらうさふらひひとりかほしらぬうしかひつくりいてゝつかはすさうのものともの中ひたるめしいてつゝつけよとの給ふかならすいつへくの給へりけれはいとつゝましくゝるしけれとうちけさうしつくろひてのりぬ野山のけしきをみるにつけてもいにしへよりのふることゝも思いてられてなかめ暮してなんきつきけるいとつれ　くに人めもみえぬ所なれはひきいれてかくなんまいりきつるとしるへのおとこしていはせたれはゝつせのともにありしわか人いてきておろすあやしき所をなかめくらしあかすにむかし語もしつへき人のきたれはうれしくてよひ入給ておやと聞えける人の御あたりの人と思にむつましきなるへしあはれに人しれすみたてまつりし後よりは思ひいてきこえぬおりなけれと世中かはかりおもひ給へすてたる身にてかの宮にたにまいり侍らぬをこの大将とのゝあやしきまての給はせしかはおもふ給へおこしてなんときこゆ君もめのともめてたしとみをききこえてし人の御さまなれはわすれぬさまにの給ふらむもあはれなれとにはかにかくおほしたはかるらんと思ひもよらすよひうちすくるほとにうちより人まいれりとて門しのひやかにうちたゝくさにやあらんとおもへと弁のあけさせたれは車をそひきいるなるあやしと思ふにあま君にたいめんたまはらむとてこのちかきみさうのあつかりのなのりをせさせ給へれはとくちにゐさりいてたり雨すこしうちそゝくに風はいとひやゝかにふきいりていひしらすかほりくれはかうなりけりとたれも　く心ときめきしぬへき御けはひおかしけれはよういもなくあやしきにまたおもひあへぬほとなれは心さはきていかなる事にかあらんといひあへり心やすき所にて月ころのおもひあまることもきこえさせんとてなむといはせ給へりいかにきこゆへきことにかと君はくるしけに思てゐ給へれはめのとみくるしかりてしかおはしましたらむをたちなからや返したてまつり給はんかの殿にこそかくなむとしのひてきこえめちかきほとなれはといふうひ　くしくなとてかさはあらんわかき御とち物きこえ給はんはふとしもしみ

つくへくもあらぬをあやしきまて心のとかにものふかうおはする君なれはよも
人のゆるしなくてうちとけ給はしなといふほとあめやゝふりくれは空はいとく
らし殿ゐ人のあやしきころゐしたる夜行うちしてやかのたつみのすみのくつれい
とあやうしこの人のみくるまいるへくはひきいれてみかとさしてよかゝる人の
みとも人こそ心はうたてあれなといひあへるもむく　くしくきゝならはぬ心ち
し給ふさのゝわたりにいゐもあらなくになとくちすさひてさとひたるすのこの
はしつかたにゐ給へり

　さしとむるむくらやしけきあつまやのあまりほとふる雨そゝきかなとうち
はらひ給へるをひ風いとかたはなるまてあつまのさと人もおとろきぬへしとさ
まかうさまにきこえのかれんかたなけれはみなみのひさしにおましひきつくろ
ひていれたてまつる心やすくしもたいめしたまはぬをこれかれおしいてたりや
りとゝいふものさしていさゝかあけたれはひたのたくみもうらめしきへたてか
なかゝるものゝとにはまたゐならはすとうれへ給ていかゝし給けんいり給ぬか
の人かたのねかひものたまはてたゝおほえなきものゝはさまよりみしよりすゝ
ろに恋しきことさるへきにやあらむあやしきまてそおもひきこゆるとそかたら
ひ給ふへき人のさまいとらうたけにおほときたれはみをとりもせすいとあはれ
とおほしけりほともなうあけぬる心ちするに鳥なとはなかておほちゝかきとこ
ろにおほとれたるこゑしていかにとかきゝもしらぬなのりをしてうちむれてゆ
くなとそきこゆるかやうの朝ほらけにみれはものいたゝきたるもののおにのや
うなるそかしときゝ給ふもかゝるよもきのまろねにならひ給はぬ心ちもおかし
くもありけりとのゐ人もかとあけて出るをとするをの　くいりてふしなとする
を聞給て人めして車つまとによせさせ給ふかきいたきてのせたまひつたれも

　くあやしうあえなきことをおもひさはきて九月にもありけるをこゝろうのわ
さやいかにしつることそとなけゝはあま君もいと　くおしく思の外なることゝ
もなれとをのつからおほすやうあらんうしろめたうなおもひ給そなか月はあす
こそせちふときゝしかといひなくさむけふは十三日なりけりあま君こたみはえ
まいらし宮のうへきこしめさむこともあるに忍て行かへり侍らんもいとうたて
なんときこゆれとまたきこのことをきかせたてまつらんも心はつかしくおほえ
給てそれは後にもつみさり申たまひてんかしこもしるへなくてはたつきなき所
をとせめての給ふ人ひとりや侍へきとの給へはこの君にそひたる侍従とのりぬ
めのとあまきみのともなりしわらはなともをくれていとあやしき心ちしてゐた
りちかきほとにやとおもへはう治へおはするなりけりうしなとひきかふへきこ

ゝろまうけし給へりけりかはらすきほうさうしのわたりおはしますに夜は明はてぬわかき人はいとほのかにみたてまつりてめてきこえてすゝろにこひたてまつるに世の中のつゝましさもおほえす君そいとあさましきに物もおほえてうつふし　くたるをいしたかきわたりはくるしきものをとていたきたまへりうすものゝほそなかをくるまのなかにひきへたてたれははなやかにさしいてたるあさ日かけにあま君はいとはしたなくおほゆるにつけてこひめ君の御ともにこそかやうにてもみたてまつりつへかりしかありふれはおもひかけぬことをもみるかなとかなしうおほえてつゝむとすれとうちひそみつゝなくを侍従はいとにくゝものゝはしめにかたちことにてのりそひたるをたに思ふになそかくいやめなるとにくゝおこにも思ふ老たるものはすゝろになみたもろにあるものそとおろそかにうちおもふなりけり君もみる人はにくからねと空のけしきにつけてもきしかたの恋しさまさりて山ふかく入まゝにも霧たちわたる心ちし給ふうちなかめてよりゐ給へる袖のかさなりなからなかやかにいてたりけるか川きりにぬれて御そのくれなゐなるに御なをしの花のおとろ　くしううつりたるをおとしかけのたかき所にみつけてひきいれたまふ

　かたみそとみるにつけては朝露の所せきまてぬるゝ袖哉と心にもあらすひとりこち給ふをきゝていとゝしほるはかりあま君の袖もなきぬらすをわかき人あやしうみくるしきよかなこゝろ行みちにいとむつかしきことそひたる心ちすしのひかたけなるはなすゝりをきゝ給て我もしのひやかにうちかみていかゝ思ふらんといとおしけれはあまたのとし比このみちをゆきかふたひかさなるをおもふにそこはかとなく物あはれなるかなすこしおきあかりてこの山の色もみたまへいとむもれたりやとしひてかきおこし給へはおかしきほとにさしかくしてつゝましけにみいたしたるまみなとはいとよく思いてらるれとおいらかにあまりおほときすきたるそ心もとなかめるいといたうこめいたるものからようゐのあさからすものし給しはやと猶行方なきかなしさはむなしき空にもみちぬへかめりおはしつきてあはれなきたまややとりてみ給ふらんたれによりてかくすゝろにまとひありくものにもあらなくにとおもひつゝけ給ひておりてはすこし心しらひて立さり給へり女ははゝ君のおもひ給はむことなといとなけかしけれとえんなるさまに心ふかくあはれにかたらひ給ふにおもひなくさめておりぬあま君はことさらにおりてらうにそよするをわさとおもふへきすまひにもあらぬをようゐこそあまりなれとみ給ふみさうより例の人ゝさはかしきまてまいりあつまるをんなの御たいはあま君の方よりまいるみちはしけかりつれとこの有さま

はいとはれ　くし河のけしきも山の色ももてはやしたるつくりさまをみいたして日ころのいふせさなくさみぬる心ちすれといかにもてない給はんとするにかとうきてあやしうおほゆ殿は京に御文かき給ふ也あはぬ仏の御かさりなとみ給へをきてけふよろしき日なりけれはいそきものし侍てみたり心ちのなやましきに物いみなりけるを思給へいてゝなんけふあすこゝにてつゝしみ侍へきなとはゝ宮にもひめ宮にもきこえ給ふうちとけたる御有さま今少おかしくていりおはしたるもはつかしけれともてかくすへくもあらてゐ給へり女の御さうそくなと色ゝにきよくとおもひてしかさねたれと少ゐ中ひたることもうちましりてそむかしのいとなえはみたりし御すかたのあてになまめかしかりしのみ思いてられてかみのすそのおかしけさなとはこま　くとあてなり宮の御くしのいみしくめてたきにもをとるましかりけりとみ給ふかつはこの人をいかにもてなしてあらせむとすらんたゝ今もの　くしけにてかの宮にむかへすへんもをときゝひんなかるへしさりとてこれかれあるつらにておほそふにましらはせんはほいなからむしはしこゝにかくしてあらんと思ふもみすはさう　くしかるへくあはれにおほえ給へはをろかならすかたらひくらし給ふこ宮の御こともものたまひいてゝむかし物かたりおかしうこまやかにいひたはふれ給へとたゝいとつゝましけにてひたみちにはちたるをさう　くしうおほすあやまりてもかう心もとなきはいとよしをしへつゝもみてんゐ中ひたるされこゝろもてつけてしな　くしからすはやりかならましはしもかたしろふようならましと思ひなをし給ふこゝにありけるきむさうのことめしいてゝかゝることはたましてえせしかしとくちおしけれはひとりしらへて宮うせ給て後こゝにてかゝるものにいと久しうてふれさりつかしとめつらしく我なからおほえていとなつかしくまさくりつゝなかめ給ふに月さし出ぬ宮の御琴のねのおとろ　くしくはあらていとおかしくあはれにひき給しはやとおほしいてゝむかしたれも　くおはせしよにこゝにおひいてたまへらましかは今すこしあはれはまさりなましみこの御有さまはよその人たにあはれに恋しくこそ思ひいてられ給へなとてさる所には年比へたまひしそとの給へはいとはつかしくてしろきあふきをまさくりつゝそひふしたるかたはらめいとくまなうしろうてなまめいたるひたいかみのひまなといとよく思ひいてられてあはれなりまいてかやうのこともつきなからすをしへなさはやとおほしてこれはすこしほのめかい給たりやあはれ我つまといふことはさりともてならし給けんなとゝひ給ふそのやまとことはたにつきなくならひにけれはましてこれはといふいとかたはに心をくれたりとはみえすこゝにをきてえ思ふまゝにもこさら

むことをおほすか今よりくるしきはなのめにはおほさぬなるへしことはおしやりて楚王のたいのうへの夜の琴の声とすんし給へるもかのゆみをのみひくあたりにならひていとめてたく思ふやうなりと侍従もきゝみたりけりさるはあふきの色も心をきつへきねやのいにしへをはしらねはひとへにめてきこゆるそをくれたるなめるかしことこそあれあやしくもいひつるかなとおほすあま君の方よりくた物まいれり箱のふたに紅葉つたなとおりしきてゆへ　くなからすとりませてしきたるかみにふつゝかにかきたるものくまなき月にふとみゆれはめとゝめ給ふほとにくたものいそきにそみえける

やとり木は色かはりぬる秋なれとむかしおほえてすめる月かなとふるめかしくかきたるをはつかしくもあはれにもおほされて

里の名もむかしなからにみし人のおもかはりせるねやの月影わさと返りことゝはなくてのたまふ侍従なむつたへけるとそ